

おかもと  
**岡本**  
まりこ  
**眞利子** 議員

## ごみの有料化における今後の課題について

幕別町において、平成16年10月よりごみの有料化が開始されたが、高齢化が進み単身世帯が増加している。

現行のごみ袋が町民ニーズに合っているか。

現在、ごみ袋は5種類に分別されている。町民の皆様もごみの分別、減量化に対する意識も高まる中「10ℓでは大きすぎる」との声もある。これからの時期には悪臭と衛生面にも配慮が必要、その解決策に更に小さな5ℓの袋の制作に取り組むべきではないか。

次に、子育て支援事業のごみ袋購入費の助成について、現在、2歳までの児童には月10枚、2年間240枚のごみ袋が現物支給されているが、使用済おむつのみは半透明な袋を使用し無料で回収する方が望まれている。

更に、高齢者の方のおむつ処理にも現在、町の取り組みがされていない。

大人のおむつは、大型で処理に大変苦慮されているため、高齢者世帯の使用済おむつも、児童と同様に無料回収に取り組むべきである。



上：10ℓ サイズの燃やせるごみ袋  
左：紙パンツ  
尿漏れパッド  
紙おむつ

**町長** 5ℓのごみ袋の制作について、十勝管内の状況としては、帯広市が平成19年8月から導入して、平成20年度以降3年間の実績として、平均で12%程度の利用割合になっているとのことであります。

また、足寄町では、生ごみ用の袋のみ5ℓの袋を導入しています。平成20年度以降の3年間平均として、約40%の利用割合になっているとかがついている。ご指摘のように排出するごみの量が少な

い方にとっては、5ℓの袋を導入してほしいと思われることは、十分理解できるので、今後、導入に向けて検討していきたい。

本町では、子育て家庭の経済的な負担の軽減と福祉の増進を図ることを目的として、平成18年4月から「幕別町子育て生活支援事業」を実施し、2歳未満の児童と同居し扶養する保護者に10ℓのごみ袋、月10枚分の購入費用を助成している。

助成期間の決定理由については、当時の管内市町村の実施状況や乳幼児健診時や赤ちゃんクラブでおむつの使用期間などを聞き取り調査を行うとともに、おむつの使用量などを考慮し、2歳未満までを助成対象としたところである。

しかしながら、事業開始から5年が経過し、子育てに対する意識の多様化などから、おむつの使用形態に変化が見られると認識をしている。

また、本町においても高齢化の進展に伴い、要介護認定者の増加に伴いおむつや尿とりパットなどの使用も増加の傾向にあることから、子育て家庭及び高齢者世帯を含め、使用済おむつの無料回収について検討をしていきたい。